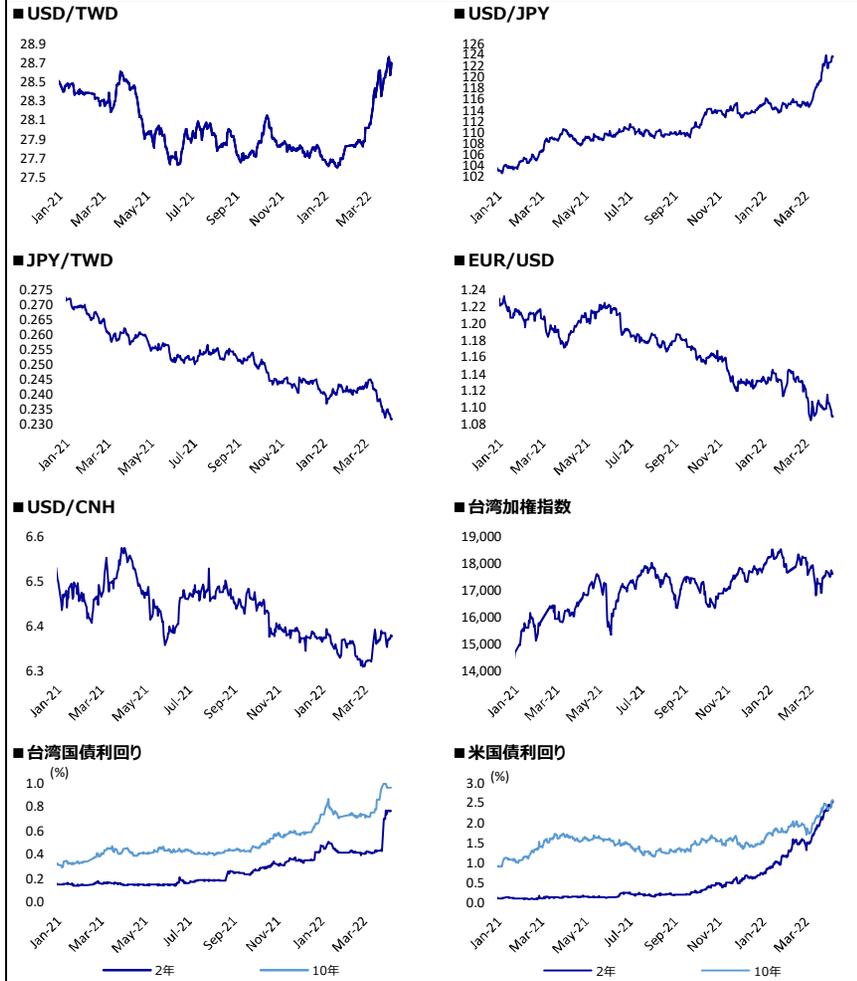


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/28は28.655でオープン後、台湾株が下落する中、外国人投資家の台湾ドル売りが拡大したことから台湾ドル安の流れに。輸入企業がドル買いを急いだこともあり、ドル台湾ドルはじりじりと上昇し、28.77台に上昇。3/29は一時28.790まで上昇したが、月末ながら輸出企業は様子見ムードが強く、下げ要因とはならず、28.78付近で推移。3/30はロシアとウクライナの和平交渉に進展の兆しが見られたため、リスク回避の動きが後退し、台湾株が上昇。また、様子見していた輸出企業のドル売りが拡大したことから、台湾ドル高の流れに一時28.534まで下落。3/31は月末ながら輸出企業は取引を控えており、レンジで推移。しかし、海外への送金が拡大すると昼前くらいからじりじりと上昇し、4/1も台湾ドルが売られると28.70台に戻した。最終的に先週比0.3%ドル高台湾ドル安の28.705で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は161.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初3/28は122.05でオープン後、日銀が指値オペを通知すると円売りが加速し123円台に。日銀が緩和政策の維持を示し、改めて日米の金融政策の差が意識され、海外時間に入ると円売りが一段と加速し、一時125.10まで上昇。しかし、その後は米金利の低下や急激な円安の反動から123円台前半まで下落。3/29は前日の大幅な値動きから月末スポット日であったもの様子見ムードが高まり、取引も乏しくレンジで推移していたが、ロシアとウクライナの停戦合意への期待感からリスク回避の動きが後退し、ドルが売られ122円台前半まで下落。3/30は、黒田日銀総裁が首相官邸入りしたと伝わると政府・日銀が円安への対応を検討中との思惑から円買いが優勢となり、121円台前半まで下落。しかし、黒田総裁からは特段円安をけん制する発言がなかったことから、121円台後半に戻した。3/31は月末で実需のフローから122円を挟んで推移していたが、月末の米債の買いによる米金利の低下や原油価格の下落により、121.28まで下落。4/1は月初の実需のフローや米雇用統計への期待から122円台後半まで上昇。注目の米雇用統計は非農業部門雇用者数が市場予想を下回るも、過去分が上方修正され、失業率が改善、平均時給が予想を上振れと強弱まちまちの結果。ドル円は買いで反応し、一時123円台をつけたものの、その後は米金利の低下と共に122円台半ばでの小動きとなった。最終的に先週比0.4%ドル高円安の122.55で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：28.600-29.000
足許は米金利が上昇しており、台湾ドルが売られやすい環境は続くであろう。また、今週は3月のFOMC議事要旨が公表されるため、テーバリングの内容を確認していきたい。

■ USD/JPY 予想レンジ：122.50-125.50
日米の金融政策の違いが明確になっており、円安の流れは続くであろう。ただし、本邦当局からも円安けん制発言も見られることから、急激な動きには警戒したい。また、日本の経常収支が発表されるが、為替への影響も見極めていきたい。

今週の予定

4/4 (MON)	
4/5 (TUE)	米2月貿易収支、米3月ISM非製造業景況指数
4/6 (WED)	FOMC議事録
4/7 (THU)	
4/8 (FRI)	日本2月経常収支、台湾3月貿易収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。